

佐土原町商工会
中小企業景況調査報告書

平成 29 年 1 月～3 月期

平成 29 年 7 月 31 日

佐 土 原 町 商 工 会

佐土原町商工会中小企業景況調査報告書

平成 29 年 1 月～3 月期

1. 調査要領

【調査対象】

(1) 対象地 佐土原町

(2) 回答企業数 60 企業

【調査対象期間】 平成 29 年 1 月～3 月を対象

【調査月】 平成 29 年 3 月

【調査方法】 佐土原町商工会会員による経営状況に関するアンケート調査

【調査データ産業別構成】

(1) 産業別構成

業種	回答企業数	構成比
サービス業	17	28.3%
卸・小売業	14	23.3%
製造業	13	21.7%
建設業	16	26.7%
合計	60	100.0%

(2) 従業員数別構成

従業員数	回答企業数	構成比
0 人	8	13.3%
1～5 人	42	70.0%
6～10 人	8	13.3%
11～20 人	2	3.3%
21 人以上	0	0.0%
合計	60	100.0%

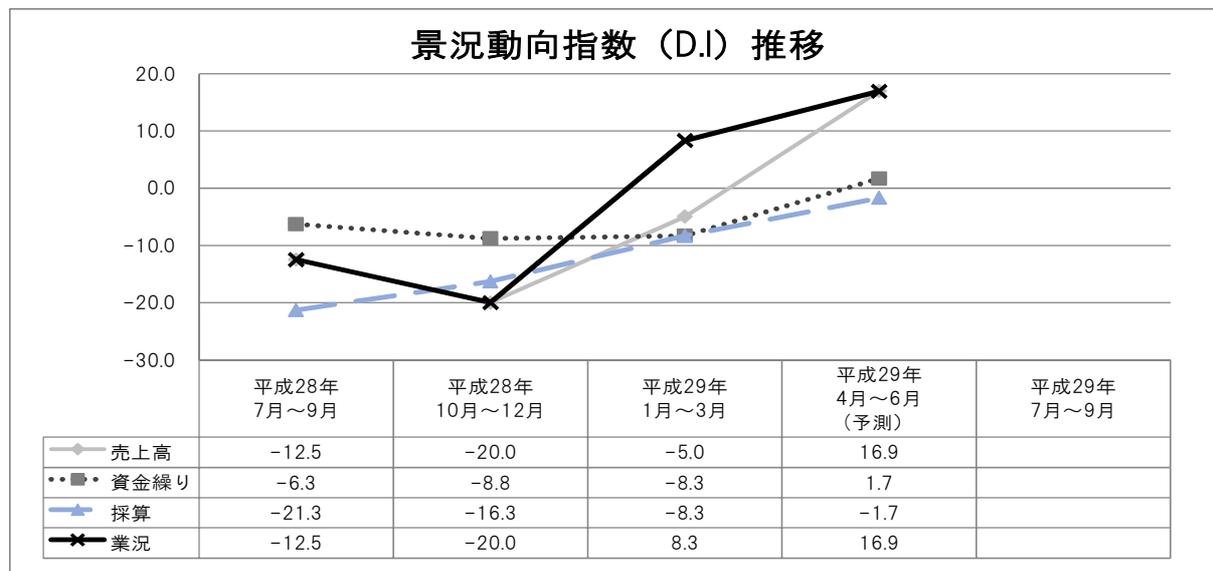
【その他】DI 値と天気マーク

本報告書中の DI 値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で各調査項目についての増加（好転、上昇）企業割合から、減少（悪化、低下）企業割合を差し引いた値を示すものである。

					
30 ≤ DI (特に好調)	15 ≤ DI < 30 (好調)	0 ≤ DI < 15 (やや好調)	Δ15 ≤ DI < 0 (やや不振)	Δ30 ≤ DI < Δ15 (不振)	DI < Δ30 (きわめて不振)

2. 全業種の景況

①景況感の推移



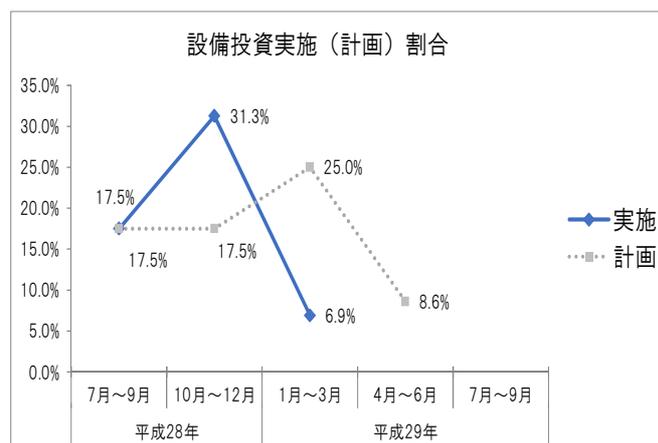
②景況の概況

	平成29年 1月～3月	平成29年 4月～6月	予測傾向
売上高			
資金繰り			
採算			
業況			

●今期の景況動向指数(DI値)は、売上高で▲5.0、資金繰りで▲8.3、採算で▲8.3、業況で8.3となり、売上額、採算は依然として水面下ながら大きく改善し、業況はプラスに転じた。資金繰りは前期同様の厳しさとなった。

●来期の予測は、売上高で16.9(21.9pt増)、資金繰りで1.7(10.0pt増)、採算で▲1.7(6.6pt増)業況で16.9(8.6pt増)と、売上高は増加に転じ、採算は減少が弱まり、業況は好調感が強まる見通し。また、資金繰りは容易となる見込み。

③設備投資概況



●今期の設備投資実施割合は6.9%で、計画を大きく下回った。

投資実施内容は下記の通り(複数回答)。

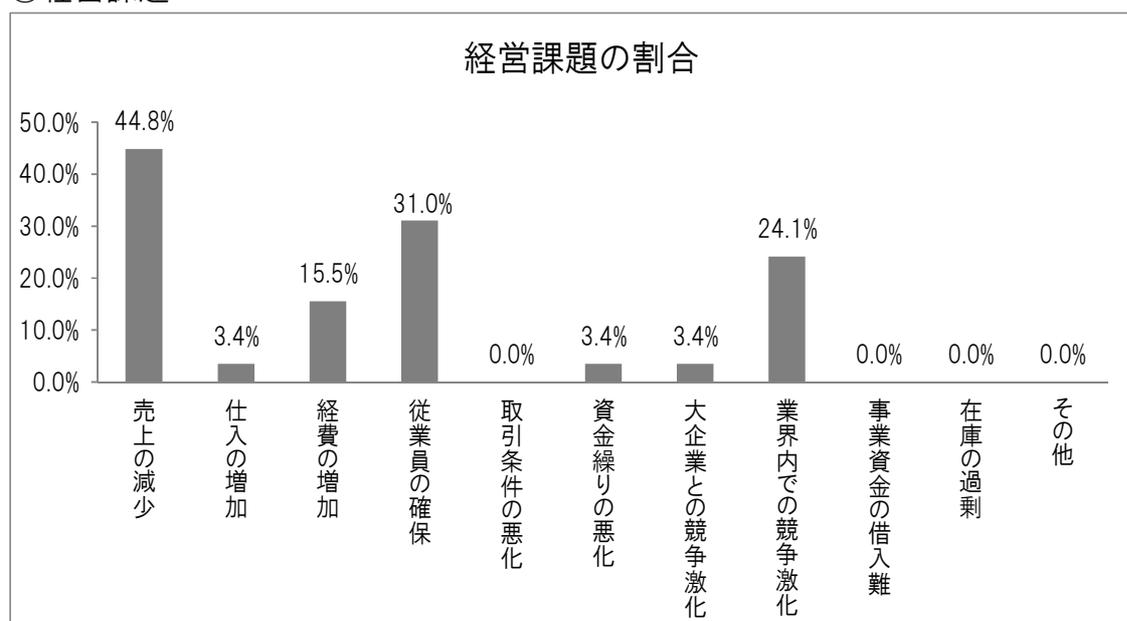
- ・建物(1件)
- ・車両・運搬具(2件)
- ・付帯施設(3件)

●来期の設備投資計画割合は8.6%で、わずかに増加する見込み。

投資計画内容は下記の通り(複数回答)。

- ・車両・運搬具(1件)
- ・付帯施設(4件)
- ・その他(1件)

④経営課題



	売上の減少	仕入の増加	経費の増加	従業員の確保	取引条件の悪化	資金繰りの悪化	大企業との競争激化	業界内での競争激化	事業資金の借入難	在庫の過剰	その他
回答件数 (件)	26	2	9	18	0	2	2	14	0	0	0
割合 (%)	44.8	3.4	15.5	31.0	0.0	3.4	3.4	24.1	0.0	0.0	0.0

●経営課題の上位3位は

- <1位> 「売上の減少」 44.8%
- <2位> 「従業員の確保」 31.0%
- <3位> 「業界内での競争激化」 24.1%

●今期も前期同様の順位となり、「売上の減少」が4割を超えて最多となった。

●前期と比較して上位3項目の占める割合がいずれも高く、他の項目を大きく引き離れた。

⑤全業種概況

平成29年1～3月期の景況感は、売上高、採算で前期と同様に水面下ながら大きく改善し、業況は特に大きくプラスに転じた。一方、資金繰りは前期同様の厳しさで推移した。

業況については、サービス業、卸・小売業、製造業でいずれも水面下ながら大きく改善し、建設業で好調感が大幅に強まったことが全体を押し上げる要因となったとみられる。

売上高については、サービス業でやや悪化したものの、卸・小売業で改善、製造業で増加に転じ、建設業で増加が強まったため、全体としては減少に歯止めがかかったものと推測される。

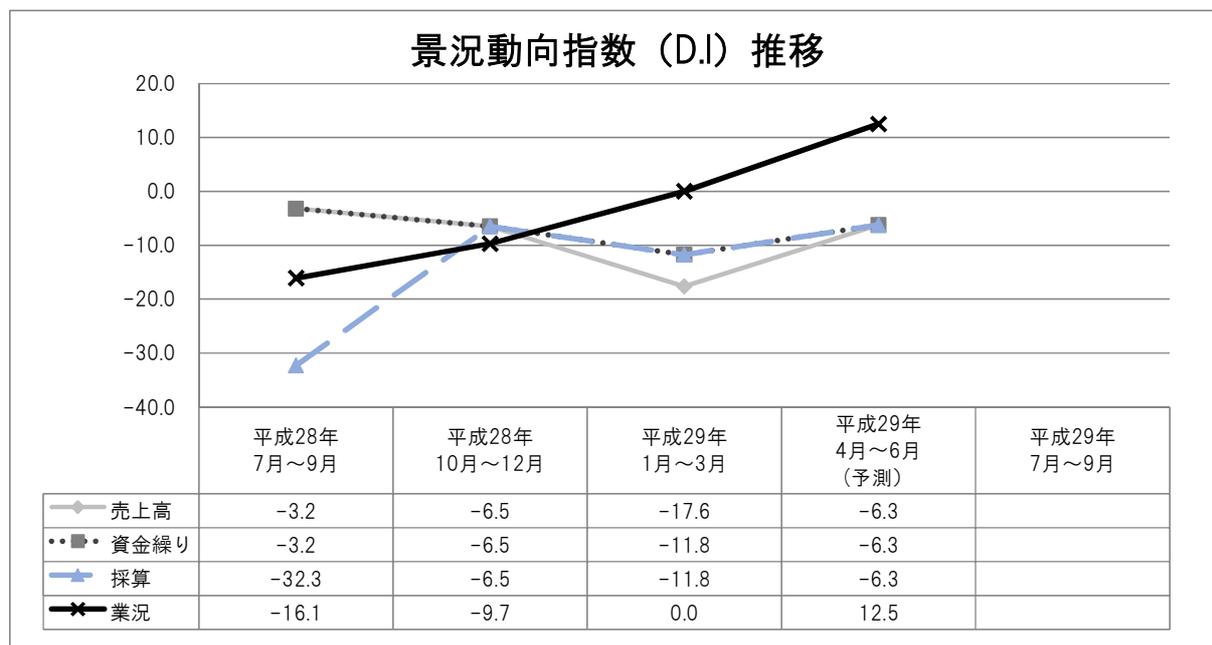
採算については、卸・小売業で持ち直し、製造業で特に大きく改善したことによって、サービス業、建設業のマイナスが払拭されたものとみられる。

資金繰りについては、製造業、卸・小売業では改善したものの、建設業で厳しい状況に転じ、サービス業でやや厳しさが強まったため、前期並の水準にとどまったものと推測される。

宮崎県全体の今期の傾向は、採算、資金繰りはやや改善したものの、売上高と業況はわずかに悪化を強めた。来期の予測は、全ての指標で水面下ながらも改善が見込まれるとしている。

3. サービス業の景況

①景況感の推移

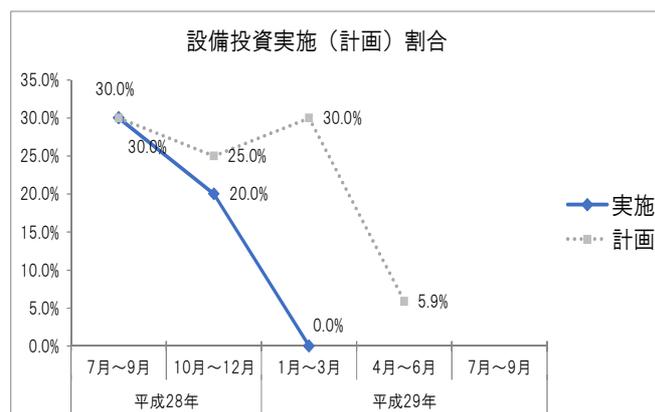


②景況の概況

	平成29年 1月～3月	平成29年 4月～6月	予測傾向
売上高			
資金繰り			
採算			
業況			

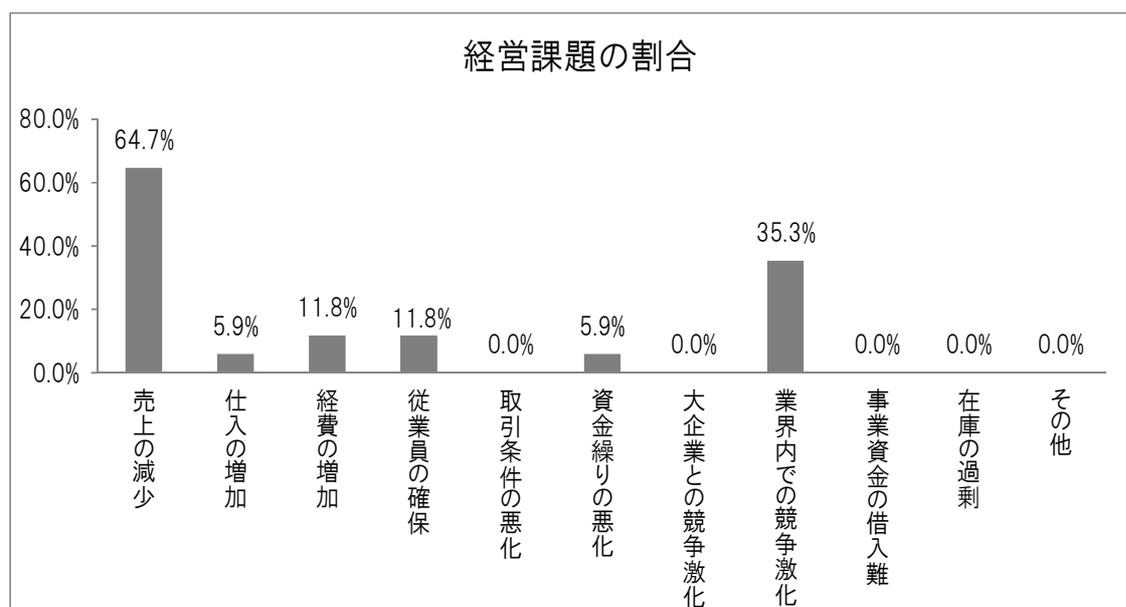
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、売上高で▲17.6、資金繰りで▲11.8、採算で▲11.8、業況で0.0となり、売上高、採算は減少を強めたが、業況は大きく改善した。資金繰りはやや厳しさが強まった。
- 来期の予測は、売上高で▲6.3 (11.3pt 増)、資金繰りで▲6.3 (5.5pt 増)、採算で▲6.3 (5.5pt 増)、業況で12.5 (12.5pt 増) と、売上高、採算はともに大幅に改善し、業況は好調感がかなり強まる見通し。また、資金繰りは厳しさが大きく和らぐ見込み。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施割合は0.0%で、予想を大きく下回った。
- 来期の設備投資計画割合は5.9%で、わずかに増加する見込み。
投資計画内容は下記の通り (複数回答)。
・付帯施設 (1件)

④経営課題



	売上の減少	仕入の増加	経費の増加	従業員の確保	取引条件の悪化	資金繰りの悪化	大企業との競争激化	業界内での競争激化	事業資金の借入難	在庫の過剰	その他
回答件数 (件)	11	1	2	2	0	1	0	6	0	0	0
割合 (%)	64.7	5.9	11.8	11.8	0.0	5.9	0.0	35.3	0.0	0.0	0.0

●経営課題の上位3位は

<1位> 「売上の減少」 64.7%

<2位> 「業界内での競争激化」 35.3%

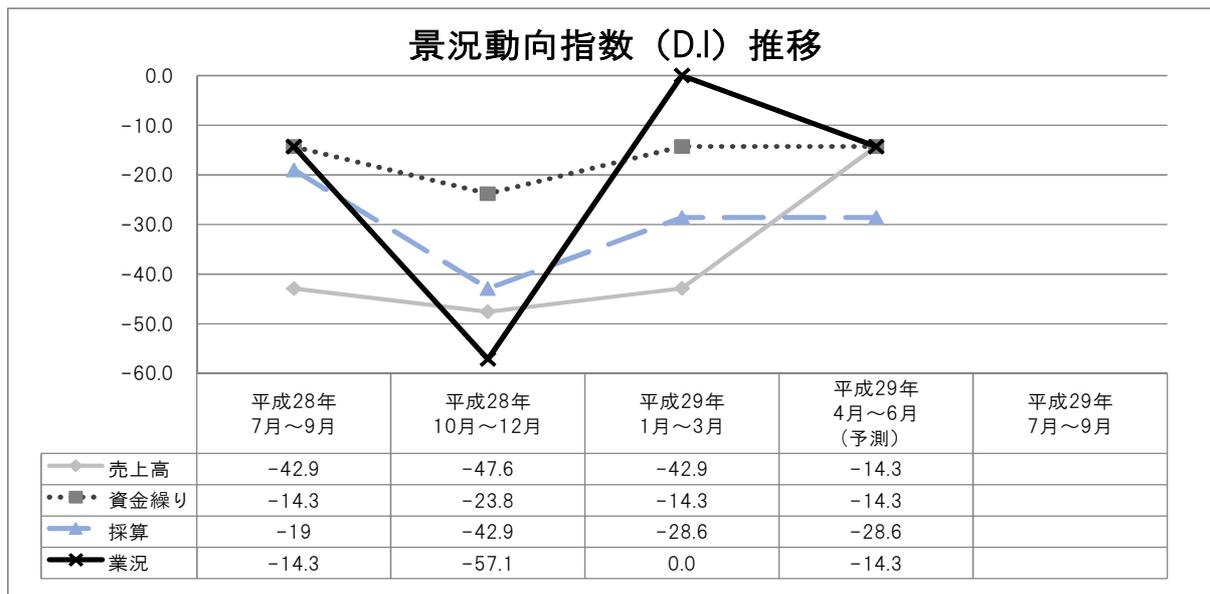
<3位> 「経費の増加」 ・ 「従業員の確保」 11.8%

● 「売上の減少」 が前期より増加して6割を超え、最多となった。

● 前期に比べ「従業員の確保」の占める割合は減少し、その一方で「業界内での競争激化」「経費の増加」の割合が増加した。

4. 卸・小売業の景況

①景況感の推移

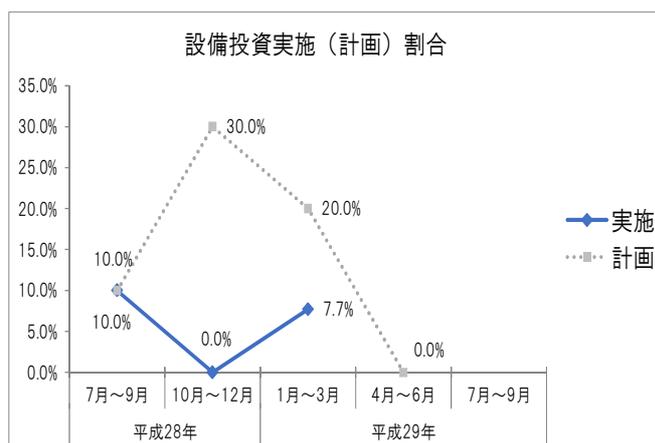


②景況の概況

	平成29年 1月～3月	平成29年 4月～6月	予測傾向
売上高			
資金繰り			
採算			
業況			

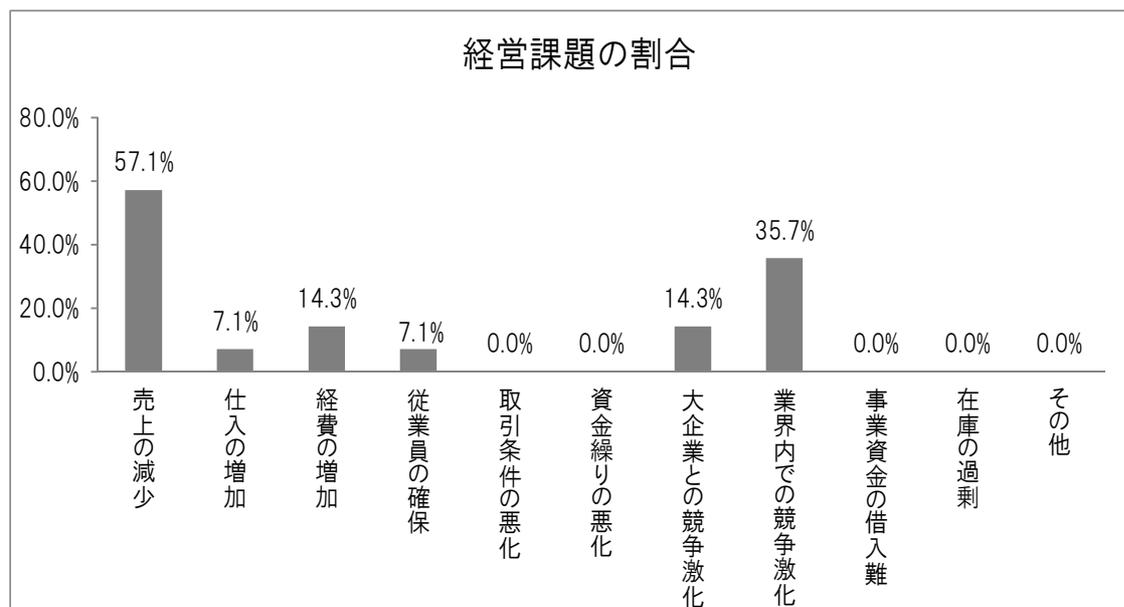
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、売上高で▲42.9、資金繰りで▲14.3、採算で▲28.6、業況で0.0となり、売上高、採算は水面下ながら持ち直し、業況は極端に大きく改善した。資金繰りはかなり厳しさが和らいだ。
- 来期の予測は、売上高で▲14.3 (28.6pt 増)、資金繰りで▲14.3 (増減なし)、採算で▲28.6 (増減なし)、業況で▲14.3 (14.3pt 減) と、売上高は極端に持ち直す一方、採算は今期と変わらず、業況は大幅に悪化する見通し。また、資金繰りは今期同様の厳しさを推移する見込み。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施割合は7.7%で、予想を大きく下回った。
投資実施内容は下記の通り (複数回答)。
・付帯施設 (1件)
- 来期の設備投資計画割合は0.0%で、大きく減少する見込み。

④経営課題



	売上の減少	仕入の増加	経費の増加	従業員の確保	取引条件の悪化	資金繰りの悪化	大企業との競争激化	業界内での競争激化	事業資金の借入難	在庫の過剰	その他
回答件数 (件)	8	1	2	1	0	0	2	5	0	0	0
割合 (%)	57.1	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	14.3	35.7	0.0	0.0	0.0

●経営課題の上位3位は

<1位> 「売上の減少」 57.1%

<2位> 「業界内での競争激化」 35.7%

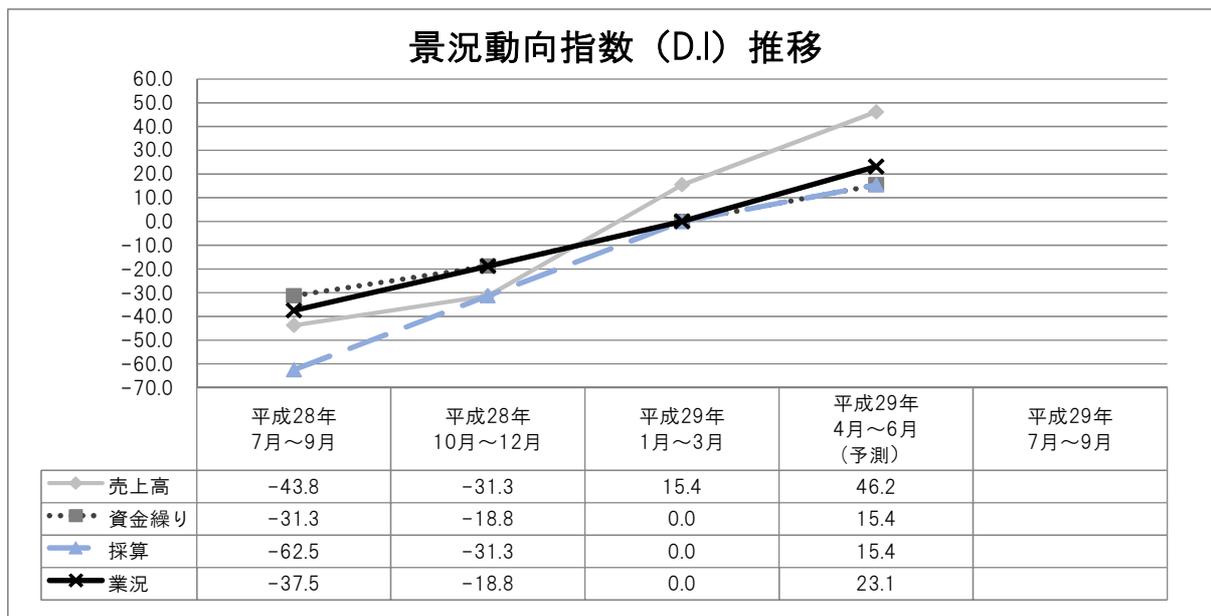
<3位> 「経費の増加」 ・ 「大企業との競争激化」 14.3%

● 「売上の減少」 が5割を超え、最多となった。

● 「業界内での競争激化」 及び 「大企業との競争激化」といった、顧客争奪に関する回答が、前期に続き多く見受けられた。

5. 製造業の景況

①景況感の推移

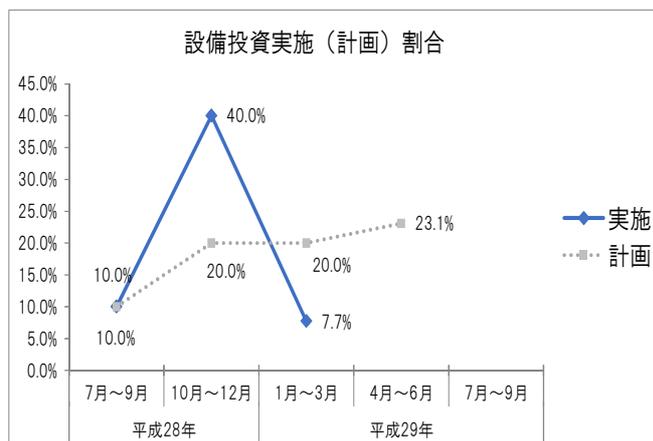


②景況の概況

	平成29年 1月～3月	平成29年 4月～6月	予測傾向
売上高			
資金繰り			
採算			
業況			

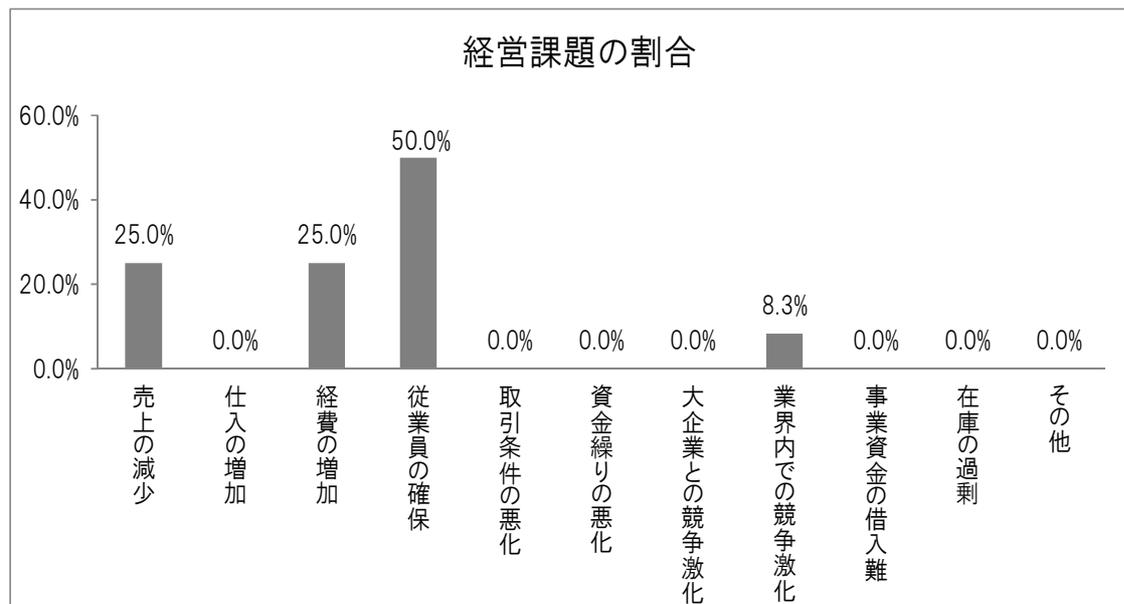
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、売上高で 15.4、資金繰りで 0.0、採算で 0.0、業況で 0.0 となり、売上高で増加に転じ、業況で大きく持ち直し、採算は特に大幅に改善した。また、資金繰りは大幅に厳しさが和らいだ。
- 来期の予測は、売上高で 46.2 (30.8pt 増)、資金繰りで 15.4 (15.4pt 増)、採算で 15.4 (15.4pt 増)、業況で 23.1 (23.1pt 増) となり、売上高は特に大きく増加が強まり、採算、業況はいずれも好調感が大きく強まる見通し。また、資金繰りも大幅に容易さが強まる見込み。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施割合は 7.7% で、予想を大きく下回った。
投資実施内容は下記の通り (複数回答)
・ 車両・運搬具 (1 件)
・ 付帯施設 (1 件)
- 来期の設備投資計画割合は 23.1% で、大幅に増加する見込み。
投資計画内容は下記の通り (複数回答)
・ 付帯施設 (3 件)
・ その他 (1 件)

④経営課題



	売上の減少	仕入の増加	経費の増加	従業員の確保	取引条件の悪化	資金繰りの悪化	大企業との競争激化	業界内での競争激化	事業資金の借入難	在庫の過剰	その他
回答件数 (件)	3	0	3	6	0	0	0	1	0	0	0
割合 (%)	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0

●経営課題の上位3位は

<1位> 「従業員の確保」 50.0%

<2位> 「売上の減少」「経費の増加」 25.0%

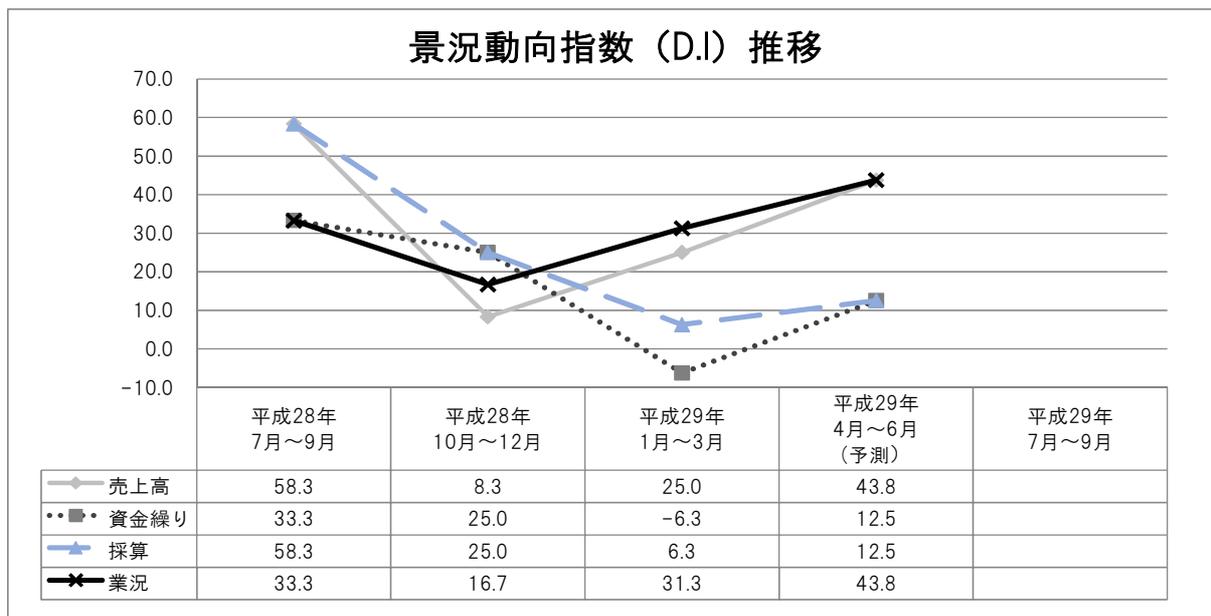
<3位> 「業界内での競争激化」 8.3%

●「従業員の確保」が5割となって1位となり、人手不足の深刻化がうかがえる。

●前期に引き続き、「売上の減少」「経費の増加」についての課題も見受けられる。

6. 建設業の景況

①景況感の推移

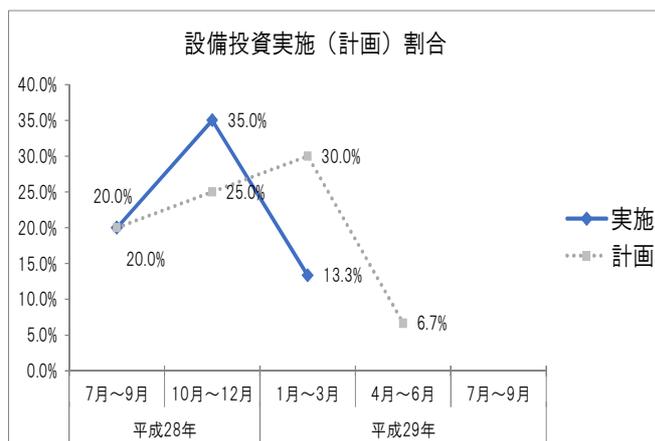


②景況の概況

	平成29年 1月～3月	平成29年 4月～6月	予測傾向
売上高			
資金繰り			
採算			
業況			

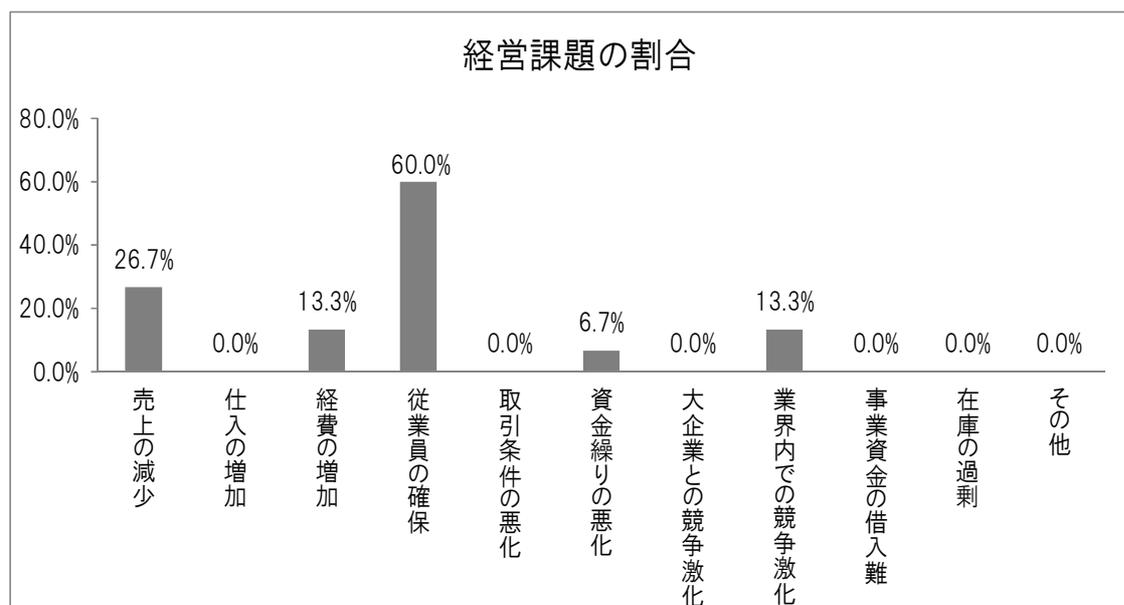
- 今期の景況動向指数 (DI 値) は、売上高で 25.0、資金繰りで▲6.3、採算で 6.3、業況で 31.3 となり、売上高は増加がかなり強まり、業況は大幅に改善したのに対し、採算は大きく伸び悩んだ。資金繰りは厳しい状況に転じた。
- 来期の予測は、売上高で 43.8 (18.8pt 増)、資金繰りで 12.5 (18.8pt 増)、採算で 12.5 (6.2pt 増)、業況で 43.8 (12.5pt 増) と、売上高、採算、業況はいずれも好調感が強まる見通し。また、資金繰りは容易となる見込み。

③設備投資概況



- 今期の設備投資実施割合は 13.3% で、計画を大きく下回った。
投資実施内容は下記の通り (複数回答)。
 - ・建物 (1 件)
 - ・車両・運搬具 (1 件)
 - ・付属設備 (1 件)
- 来期の設備投資計画割合は 6.7% で、大きく減少する見込み。
投資計画内容は下記の通り (複数回答)。
 - ・車両・運搬具 (1 件)

④経営課題



	売上の減少	仕入の増加	経費の増加	従業員の確保	取引条件の悪化	資金繰りの悪化	大企業との競争激化	業界内での競争激化	事業資金の借入難	在庫の過剰	その他
回答件数 (件)	4	0	2	9	0	1	0	2	0	0	0
割合 (%)	26.7	0.0	13.3	60.0	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0

●経営課題の上位3位は

<1位> 「従業員の確保」 60.0%

<2位> 「売上の減少」 26.7%

<3位> 「経費の増加」 ・ 「業界内での競争激化」 13.3%

● 「従業員の確保」が6割を超えて1位となり、人手不足の深刻化が強うかがわれる。

● 前期に引き続いて「売上の減少」が2位となり、売上についての懸念も続いている。

7. 景況概要のまとめ（業種別）

①サービス業

前期と比較した今期のサービス業は、売上高、採算で減少を強め、資金繰りにおいても厳しさが強まった。採算は前期大幅に改善したものの今期は悪化し、売上高、資金繰りも前期に続いて悪化を強めた。経営課題に「売上の減少」を挙げた企業は64.7%と6割を超えており、厳しい状況が継続しているとみられる。一方、業況は水面下ではあるものの前期において若干の改善がみられ、今期も引き続き大幅な改善となった。来期は、全ての指標で大幅に改善し、業況は回復に向かう見通しとなっている。

宮崎県内のサービス業の今期の動向は、売上、資金繰りは悪化しているものの、採算は改善傾向を示している。来期の見通しは、売上、採算、資金繰りのいずれでも改善が見込まれ、特に売上がプラス圏に浮上するなど、回復基調となる見込みとなっている。全国的には、今期の売上額は改善、採算、資金繰りはともに横ばいで、業況も横ばいとなった。来期の業況は改善の見通しである。

②卸・小売業

前期（小売業）と比較した今期の卸・小売業は、売上高、採算は水面下ながら持ち直し、資金繰りは厳しさが大きく和らいだ。前期は全ての指標で悪化傾向を示したが今期はいずれにおいても改善がみられ、前期に大きく低迷した業況も極端な改善となった。しかしながら、経営課題に「売上の減少」を挙げた企業は57.1%と5割を超え、「業界内での競争激化」「大企業との競争激化」にも回答が比較的多く集中するなど、依然として厳しい状況であることがうかがえる。来期は、売上高は大きく改善するものの、採算及び資金繰りは今期同様となる見込みであり、業況は大幅に悪化する見通しとなっている。

宮崎県内の小売業の今期の動向は、資金繰りが改善の一方で、売上、採算は悪化という結果になった。来期の見通しは、売上と採算は改善が見込まれるものの、資金繰りは悪化が予想される。全国的には、今期の売上額は改善、採算、資金繰りはともに横ばいで、業況も横ばいとなった。来期の業況は改善する見通しである。

③製造業

前期と比較した今期の製造業は、売上高で増加に転じ、資金繰りで大きく厳しさが和らぎ、採算は特に大幅に改善した。前期に続き今期も全ての指標で大幅な改善傾向を示し、前期における予想値と概ね一致する結果となった。これを受けて、業況も前期に続き厳しさが大きく和らいだ。経営課題においては「従業員の確保」が50.0%と人手不足の状況がうかがえ、景況感が上向していることを反映している。来期は、全ての指標でプラス水準となる見込みで、業況も回復に向かう見通しである。

宮崎県内の製造業の今期の動向は、売上、資金繰りは改善したものの採算は悪化した。来期の見通しは、売上は横ばいであるが、採算、資金繰りはともに改善を見込んでいる。全国的には、今期の売上高は改善し、採算と資金繰りはいずれも横ばいとなって、業況は改善した。来期の業況は改善が見込まれている。

④建設業

前期と比較した今期の建設業は、売上高は大きく増加を強めたものの、採算は大きく伸び悩み、資金繰りには窮屈感がみられ、厳しい状況となった。前期は全ての指標において好調感が大きく後退したが、今期は売上高の大幅な改善により業況が押し上げられる結果となった。ただし、その一方では引き続き採算の縮小や資金繰りの悪化が懸念される状況となっている。経営課題にお

いては「従業員の確保」が60.0%となり、人手不足が大きな課題となっている。また、「売上の減少」も26.7%で続いており、一部では売上悪化の影響が継続していることがうかがわれる。来期は、全ての指標で好調感がさらに強まり、業況も大きく上向き見通しである。

宮崎県内の建設業の今期の動向は、完成工事額は悪化したがプラス圏を維持し、採算、資金繰りは改善という結果になった。来期の見通しは、売上は悪化、資金繰りは横ばいだが、採算は改善を見込んでいる。全国的には今期の売上高は改善、資金繰りは横ばいとなって、採算は悪化したものの、業況は改善した。来期の業況は悪化の見通しとなっている。

【参考データ】 宮崎県商工会連合会（平成29年1月～3月期）

経済産業省 中小企業景況調査（平成29年1月～3月期）

8. 参考：景況に関するアンケート調査票

添付ご希望の場合は調査票データの共有を
お願いいたします

佐土原町商工会
中小企業景況調査報告書
(平成 29 年 1 月～3 月期)

平成 29 年 7 月発行

佐土原町商工会

〒880-0211

宮崎県宮崎市佐土原町下田島 20732-53

■TEL : 0985-73-2567

■FAX : 0985-73-4975